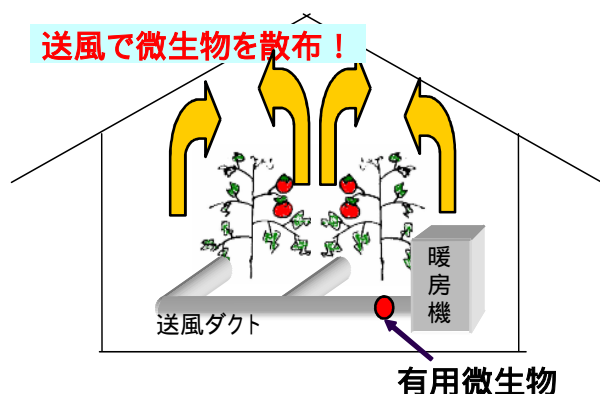


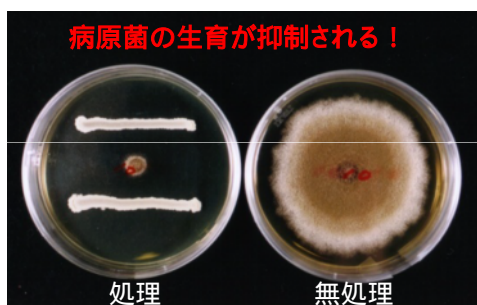
# 有用微生物を送風で散布して省力防除

施設栽培の病害防除は、化学農薬を水に希釈して散布する方法が一般的に行われています。しかし、近年は天敵や有用微生物といった生物農薬の利用が増加しているとともに、散布労力の改善が求められています。そこで、有用微生物を暖房機の送風口に粉のまま投入するだけで、送風ダクトから施設全体に散布し、病害を防除する技術を出光興産(株)と共同で開発しました。  
(平成12～14年度病害虫総合管理技術推進対策事業)

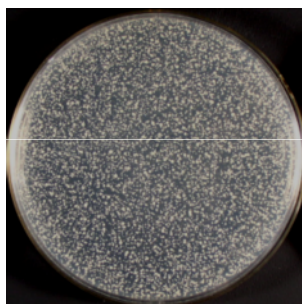


## 本技術の特徴

- ・ 連続的に作物表面を保護 (バチルス菌による競合作用)
- ・ 薬剤散布労力の軽減 (1日一さじ入れるだけ)
- ・ 散布時に水を使用しない (低湿度で発病抑制)



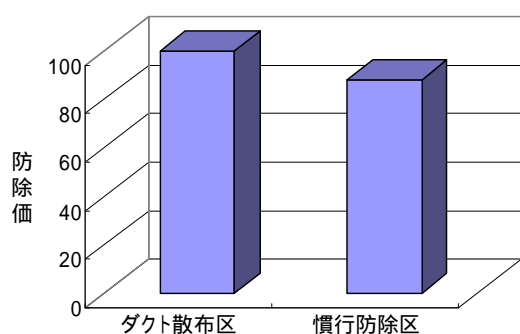
バチルス菌の拮抗作用



飛散したバチルス菌



畝間に配置されたダクト



キュウリ灰色かび病の防除効果



自動投入機でさらに省力(出光興産HPより)

## (研究成果)

- ・ ダクト投入法(特許第3986726号)は、ポトキラー水和剤において使用可能で、野菜類、花き類・観葉植物全般の灰色かび病及びいちご、ピーマンのうどんこ病に対して登録があります(H21年7月現在)。
- ・ 施設園芸の灰色かび病、うどんこ病の基幹防除技術として、国内で広く使用されています。